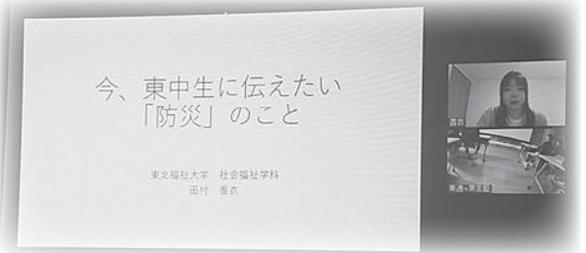


東通中学校3年生 防災講話学習!

9月9日、東通中学校3年生が防災教育の一環で、当校卒業生で現在社会福祉士を目指しながら、防災についても勉強をしている田村香衣さん（東北福祉大学1年）のリモート防災講話を聞きました。当日は、講話を聞く班と自分たちの自宅付近の避難経路や避難場所について、地図を用いてチェックを行う班に分かれ、授業が行われました。

授業冒頭、田村さんが防災について勉強を始めたきっかけとして「大学の友人が東日本大震災で被災した話を聞いて、自分の周りってどうなんだろう？実際に地震が起きたときすぐに避難できるのだろうか？そう思い勉強を始めました。私が勉強して分かったことを伝えたいと思い、今回のこのような機会をいただきました」と話しました。



リモートで挨拶をする田村さん



真剣に話を聞く生徒たち



紹介した防災グッズ

ハザードマップを使ってほしいこと

- ①地域の危険箇所、安全な避難場所を確認
→避難経路を歩いてみると◎
- ②家族と「災害時の行動」について話し合おう
→避難所、危険箇所、合流地点 など



田村さんに対し講話の感想を伝える代表生徒

続けて「今でも行方不明の人がいることや地震が来るたびに感じる恐怖について話を聞き、衝撃を受けました」と、徐々に復興している被災地では、10年経った現在もまだ苦しんでいる人や恐怖に怯えている人がいるということをお話しました。

授業では、普段から気にかけて欲しいことや事前に準備しておいてほしい防災グッズについて画面を使って紹介しました。

また、村から各世帯に配られているハザードマップを使って、避難経路や避難場所などの確認をして欲しいと、災害を予想した事前準備の重要性を話しました。

また、住宅地図を使って調べる班では、各地区ごとに分かれ、真剣に避難経路や避難場所を確認していました。見学した畑中稔朗村長も一緒に地図を確認し、生徒たちにアドバイスをしていました。

最後に、3年生代表の生徒が「日頃から避難の準備や高齢者の方と早めに逃げることの大切さが分かりました。ハザードマップには、地域の危険箇所や安全な場所を示し、自分たちがしっかり把握しておくことが大切だと分かりました」と講話に対する感想を伝えていました。



見学した畑中村長の話を聞く生徒たち



自分たちの住む地区の避難経路・場所を確認